

換気で住宅の劣化を防げ 軒先、広小舞上、ケラバでも

副資材特集

日本の屋根、雨仕舞と換気。

互換換気スズカK
立平換気用押入ペナルギラスT

あらかゆる屋根の様から軒先まで雨仕舞と換気を研究しています。

houseco 大阪府大阪市中央区船場2-10-28
〒542-0827
TEL 06-4963-8266
FAX 06-4963-8267

住まいに自然の流れをつくる株式会社ハウゼコ

戸建住宅の屋根は形状や面積、屋根材が大きく変化し、耐震性能や耐風性能、劣化対策など、屋根に求められる性能は年々高くなってきています。屋根材だけではなく、屋根材を支える副資材の性能も向上させるのが副資材の一つとして、換気も屋根に求められていく重要な性能の一つ。事業領域の再定義を迫られている業界、外装トータルでの通気を実現するための、屋根工事が扱いやすい新たな商品として、また提案商品として、棟だけだけでなく、軒先、広小舞上、ケラバで換気する商品を紹介する。

換気部材3商品

軒先、広小舞上、ケラバ

ハウゼコ(株) 本社・大阪府中央区、神戸陸社社長 2006.4.9.63.8266)は住宅用換気部材製造業。キャッチピートは、住まいに自然の流れをつくる。換気部材と屋根・壁の戸建用金具、外装部材一式、約7千点を自社工場で一貫生産。

換気部材は、「コバシ」シリーズ、「メガシ」シリーズ、「バカシ」など、換気部材が多数発生しているという。同社では「つた」軒先、対応した、高い換気性能と防

水性性能を兼ね備えた製品を揃えている。

軒先換気部材「コバシ」は、軒先、対応製品、外周金属の吸排気有効、雨水の浸入を防ぎ、軒先の意匠がシンプルでスッキリ仕上がる。アンジャスト機能を持たせ、外壁部との微調整も可能。

広小舞上換気部材「メガシ」は、化粧スレーション、化粧スレーションの軒先、対応製品、軒先周りで吸排気品、ポリカーボネート小舞上換気がなされる。小舞上換気が多発生しているという。同社では「つた」軒先、対応した、高い換気性能と防

“軒ゼロ”にも施工できる 防水性も商品選択のカギ

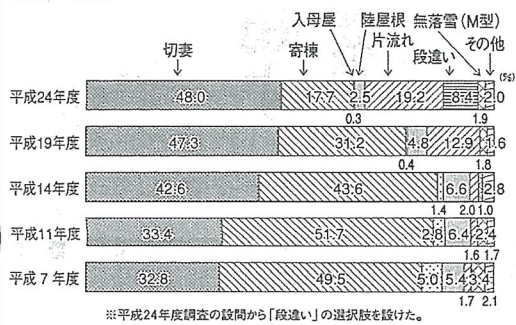
防水ケラババックキンドネフオーターブルーフ

バックキンドネフオーターブルーフは、軒ゼロ、対応製品、外周金属の吸排気有効、雨水の浸入を防ぎ、軒先の意匠がシンプルでスッキリ仕上がる。アンジャスト機能を持たせ、外壁部との微調整も可能。

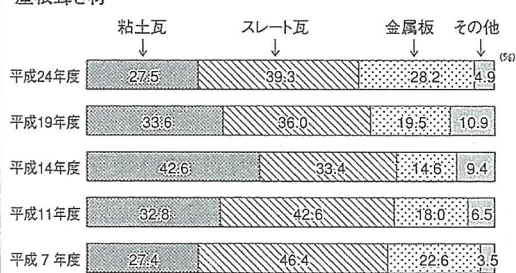
軒先換気部材「コバシ」は、軒先、対応製品、外周金属の吸排気有効、雨水の浸入を防ぎ、軒先の意匠がシンプルでスッキリ仕上がる。アンジャスト機能を持たせ、外壁部との微調整も可能。

広小舞上換気部材「メガシ」は、化粧スレーション、化粧スレーションの軒先、対応製品、軒先周りで吸排気品、ポリカーボネート小舞上換気がなされる。小舞上換気が多発生しているという。同社では「つた」軒先、対応した、高い換気性能と防

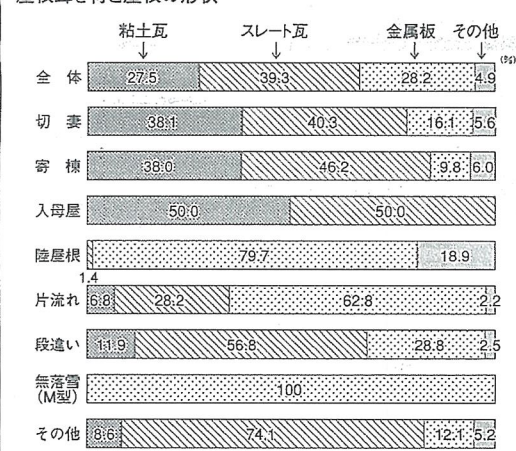
屋根の形状



屋根葺き材



屋根葺き材と屋根の形状



住宅金融支援機構の資料より・屋根材名称は原文のまま

屋根形状が変化

片流れ 瓦は1割程度 寄棟が急減、切妻48%に

支援機構の24年度住宅仕様調査

住宅金融支援機構(旧住宅金融公庫)が5年に1度実施している住宅仕様実態調査がこのほど公表され、平成24年度の調査にも、片流れ屋根や段違い屋根が増えていると、それらの屋根形状では瓦の割合が1割程度に下がっていることが明らかになった。

この調査は「フラット」ターネットでも閲覧できる。

新築住宅について、今回の調査は平成24年度、4月1日以降に設計検査合格した住宅を対象とし、25年度の調査結果は1月までに調査票を回収した。集計対象数は3千件で、内訳は北海道97件、東北197件、首都圏左クラフの通り、切妻48%

調査結果、屋根形状の全国集計は左クラフの通り、切妻48%、寄棟18%、片流れ19%、段違い8%、陸屋根3%などの順が多かった。5年間の調査で、切妻屋根が増加しており、19年度調査からは寄棟を上回っているが、今回は寄棟が前回の31%から急減している。

屋根形状では今回調査から「段違い」が新たな選択肢として設けられた。この結果から、片流れ、段違いなどの住宅は建築費が安いケースが多いことも想定される。

屋根葺き材の全国調査結果はクラフの通り、スレート瓦39%、粘土瓦28%、金属板28%、その他4.9%。九州で12%、首都圏で7%、関東で6%、近畿で7%、中部で6%、北海道で3%に止まった。これらを地域別にみると、北海道を除く全ての地域で切妻が多かったが、関東は最も高かった。関東の57%、次いで九州の53%、近畿は41%、中部の31%、北海道は21%だった。

片流れが最も多いのは北陸で31%、次いで四国28%、東海、中国は23%。関東は21%だった。段違いは四国、東北など15%を占め、首都圏、北陸なども1割に迫る。劣勢の寄棟は北陸、四国で1割を切った。多くの地域で2割未満だが、首都圏のみ寄棟が23%に上った。北陸は12%に止まった。金属板は北海道で10%、東北で7%、北陸は6%と寒冷地で割合が高かった。

この調査では小屋裏換気の設置方法も調べられ、最も多かったのは軒先から吸排気を行った方法が43%。棟換気に相当する軒裏吸気棟換気は16%だった。